

平成7年10月24日第3種郵便物認可 2012年3月10日発行(毎月1回10日発行)・通巻262号

2012

# 月刊 En-ichi 圓一

3  
no.262

## 魂の教育を実践する

インタビュー

### 崇高な存在を求めることこそ最高の幸福

北陸学院大学教授 丸山久美子



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の  
焦点

至高体験というのでしょうか、…自分はちっぽけな存在で、こんなことでもよく悩んでも、お釈迦様の手の内だと悟らしめるような、そういう感性が青年期には重要です。

崇高な存在を求めるところこそ人として最高の幸福 丸山久美子…7

自分に対する不当な、あるいは理由の不明な敵意や悪意を受ける…とき、相手の「開運」「解放」を祈るのだそうである。すると不思議に、相手の態度が変わってくるのを何度も体験しているという。

現在の危機を打開する本当の「開運祈願」 渡辺久義…8

(フランスのエリート養成校では) 実学を重んじ…指導者教育と愛国教育を重視し、公に仕える人材を育成している。…そのため、フランスで指導的立場に立つ人材は、驚くほど愛国心が強い。

仏、英に見る欧州の愛国教育…10

ボランティアスクール「ひまわり」は…公立学校と連携しながら、公立学校ではできない手法をとり入れる。例えば、ゲーム機やカードゲームも「あり」だ。これには渡辺校長の強い思いがある。

子供たちの「光るもの」を伸ばしたい…14

## 3 巻頭言

## 「アジアの真世紀」実現に不可欠な生き方

京都大学法学博士 岡本幸治

## 4 教育再生への課題と展望

## つながりの幸福論

## 崇高な存在を求めるところこそ人として最高の幸福

北陸学院大学教授 丸山久美子

## 8 コラム

## 現在の危機を打開する本当の「開運祈願」

京都大学名誉教授 渡辺久義

## 10 ワールドアフェアーズ

## 仏、英に見る欧州の愛国教育—愛国心は大切と考える国民

## 12 情報ファイル

## 東大が秋入学目指し中間報告

## 体験活動多いほど「思いやり」や「意欲」

## 14 私の教育実践

## 子供たちの「光るもの」を伸ばしたい「横浜みどりの学校ひまわり」

## 16 オピニオン

## 少子化対策には「家庭の価値」教育の充実を

## 18 病を克服した偉人たち

## 南方熊楠 幼少で病抱えながら学問的業績

## 20 子育ては絵本で大丈夫

## 「あまがえるさん、なぜなくの？」親は死んでも子を教育します

劇団天童/  
天童芸術学校代表

浜島代志子

## 21 教育情報

## 日本の留学生の現状 ほか

## 22 Book Review / 読者の声

## 24 歴史と伝統の探訪

## “敵国”ロシア沈没船の乗員を救助 / 島根



京大法学博士  
岡本幸治

## 巻頭言



二十一世紀は世界にとっていかなる世紀になるのだろうか。過ぎ去った二十世紀は「戦争と革命の世紀」であった。無数の人々がそのため命を失った。二つの世界大戦を見ればわかるように、近代西洋の得意な科学技術の成果は直ちに軍事技術の高度化に応用され、殺戮手段が飛躍的に発達した。思想面では無産階級の解放を叫んだロシア革命が第二次世界大戦後に中国・北朝鮮その他のアジア・アフリカ諸国に波及したが、それは多くの国で「人民の名による新たな人民抑圧体制」を生み出すだけに終わった。十九世紀が西欧(英国)の世紀であったとすれば、二十世紀はその派生物である米国の世紀であったといえる。先の大戦後に米国の覇権に挑戦したソ連が崩壊したとき、多くの論者は、二十一世紀は一極集中の世界となり米国の世紀が更に続くだろうと考えた。経済的にも繁栄し文明の最先進国と見なされた米国は「ビジネスの世紀」の指導国でもあった。

しかし米国がグローバリゼーションの名の下に展開した「銭転がし資本主義」は、リーマンショックなどに示されているように、社会主義体制崩壊後の新世紀を指導する理念としては多くの問題を抱えている。

私はこのところ、二十一世紀は文明中心の移動の世紀になるだろうと考えている。かつての

## 「アジアの真世紀」実現に不可欠な生き方

日本のように先進国を遙かに上回る高度成長を達成しつつあるのは「遅れたアジア」の代表選手と見なされてきた中国や印度などである。文明中心の移動はまず経済から始まる。新世紀は「アジアの世紀」になる可能性が大きいのだ。しかし見逃してはならないことがある。ビジネスの原義は *Busy* の名詞形であるから「多忙」であり、「忙」は「心を亡くすること」である。ビジネスを盛んにし経済発展を導いた二十世紀の文明は、精神を貧しくするという根本問題をはらんでいたのである。

二十世紀初頭に英文で出版した『東洋の理想』において岡倉天心は東西文化を比較し、西洋(欧州)は人生の手段(経済や経済力・軍事力など)の開発に優れているが、東洋(アジア)は人生の意味の探求を重視した。世界大宗教のすべてがアジアで生まれたのはそのためであると指摘する。

日本は開国以来文明開化に励みアジアの最先進国としてアジアの覚醒・発展に貢献したが、実はこの過程において疎かにしたものがあつた。それは「人生の意味」を探求するアジアの最も深い伝統の継承深化であつた。二十一世紀を「アジアの真世紀」にするためには、我々は目の前の経済問題のみに心を奪われることなく、生き方の根本(人生の真義)を探求し、脚下照顧して精神を深化させる営みが不可欠である。アジアの先人は簡潔な言葉でその方向性を示している。「心身不二」「人はパンのみにて生くるに非ず」。

# 崇高な存在を求めるときこそ 人として最高の幸福

人としての幸福は、崇高な存在に目を向けるところにある。そうしたスピリチュアリティを子どもたちに育てたい。

「幸福指数」が  
高くない日本

今、「幸福論」が盛んです。

幸福というのは何か、幸福に生きるとはどうしたらいいのか。この問題は人間であれば、誰もが考えながら生きています。

ただ、現代は若い人たちにとっては、なかなか希望を見出せない状況です。政治が混乱し、社会不安も大きい。それでも絶望の中に幸福を見つけようとしている若者はいます。もはやブランド志向に走る時代ではなくなりました。衣食住が足りていればそれで良いという考えが、若い人の間に広がり

つつあります。日本はGDP（国内総生産）が高くても、幸福指数（GPH）は必ずしも高くありません。

私は今、リエゾン心身処方学的見地から「人間の幸福」について研究しています。【図参照】

「リエゾン」は「つながり」という意味です。学問で言うところ、医学も、心理学も、数学、経済学、法学も全てつながっています。一歩外側の学問が実践的であり、内側へ行くに従って、抽象的になり、更に、中心核となるものに哲学や形而上学をおきます。

形而上学はギリシャの哲学者アリストテレスのニコマコス倫理学によれば、第1哲学の分野に入り、



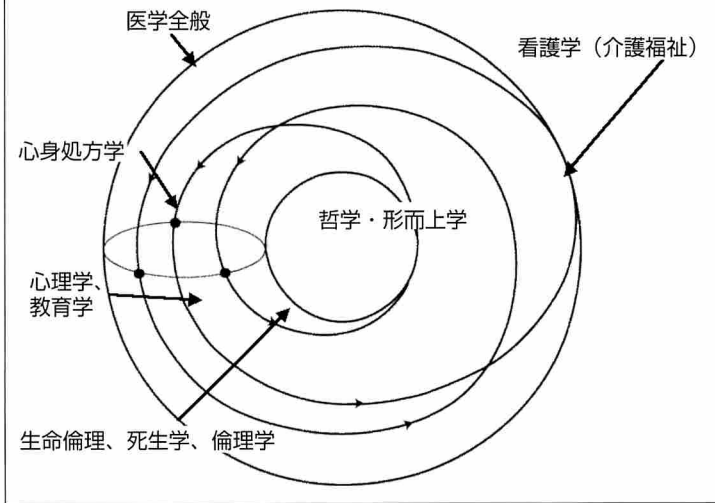
丸山久美子

まるやま・くみこ  
北陸学院大学教授

青山学院大学卒。同大学院(心理学)修了。米国イリノイ大学留学。盛岡大学教授、ドイツ・ケルン大学客員教授、アイルランド国立大学ダブリン校客員研究員、聖学院大学教授等を経て現職。専攻は臨床社会心理学、行動計量学。著書に『犯罪心理学特講』『臨床社会心理学特講』『医療心理学特講』『犯罪心理プロファイラー素描—母と娘の事件簿』『心理統計学—トポロジーの世界を科学する』『21世紀の心の処方学』『今日の生涯発達心理学』他。



## リエゾン心身処方学の三次元的表現



その下に一般の哲学(自然科学、人文科学など)が在るわけで、その意味からいっても中心核は第1哲学の形而上学(神学)、第2哲学(哲学一般)となります。アリストテレスは人間の本性とは理性による道徳的な善の実現であり、その上にたつて好ましい生活をするのが幸福であると考えます。つまり、快—不快、善の認識(目的)、善を目的とする(手段)、善の行

差す欲求(手段)、善の行為が人間の幸福な生活であり、かつ最高善は最高の幸福であつてそれが哲学的観想であると主張しております。

### 幸福には二つの側面

言葉にしてしまうと簡単なことです。幸福には、例えばお金持ちになりたいとか、おいしい物を食べたい、きれいな服を着たいというような、物質的、情

緒的な側面があります。もちろん、それで幸福を感じるといふ幸福論があつてもいいのです。

ただ、私はもう一つの側面、人として崇高なものを求める幸福を考えたいと思います。物はたくさんあつたほうがいいかもしれませぬ。ただ、それは人間的な欲望です。そうではなく、もつと違うものがあつたのではないか。「私たちが人間は神様のことを考えている時が一番幸福だ」とパスカルは言いました。非常にわかりやすい言葉です。

アリストテレスのニコマコス倫理学による人間の幸福論を、ドイツ・ケルン大学の教授で中世盛期を代表するドミニコ会修道士であり哲学者であるアルベルトウス・マグヌスに私淑したスコラ哲学者のトマス・アクイナスが人間生活の最終目的と幸福とを同一のものとみなし、アリストテレスの幸福論の中で最高の知的徳による幸福は神の本質を観想することだけで、現世の幸福は不完全であるといえます。これは信仰と関係付けて考え

られるべきもので、およそ神学を思考する人たちは自分の信仰の立場から幸福を論じております。本来的自己は最終的には形而上的な世界の中に没入し深く神の本質を思索する、観想することであるといふのはそのような論拠から来るものでしょう。

これは哲学というより、信仰の世界と言つてもいいかもしれませぬ。

### 「神様、ありがとう」 「じゃあ、あ、あ」

ただ、信仰と言つても難しい話をしていられるではありません。日常生活の中で、「大いなるもの、貴いものを意識させる」だけでもいいのです。聖書の言葉の中に「人はパンのみにて生きるにあらず」とあり、ロシアの文豪トルストイの有名な作品にも同じ題名の作品があります。

ただ衣食住が足りていれば幸福なのではなく、「霊の糧」があつて初めて私たち人間は真に満ち足り

# 「子どもの好きなようにさせる」というのは親のエゴ

ることを知るのです。

私たちの学校には北陸学院第一幼稚園と扇幼稚園がありますが、スピリチュアリティ（霊性）の理念を重んじ、「神様、ありがとうございます」という感謝の心を育むことを目標にしています。

子どものときからスピリチュアリティをきちんと育てないと、成長してから苦しむことが多くなる。場合によっては犯罪に至ることもなかりかねません。

例えば、神戸の児童連続殺傷事件の少年。犯罪心理学的見地からすれば、少年がなぜ事件を起こしたかを考えると、「実存的な苦しみ」から逃れられなくなったということとです。つまり彼の中に眠っていた霊性が飢餓状態に陥り、何とかそれから逃れたいために、彼は自分で自分の神を創り上げ、その神に生贄を捧げるために人を殺してしまう。

彼が思春期に、信仰的なものに触れる機会があれば、あんなことにはならなかったのではないかと考えてなりません。スピリチュア

リティの欠如ゆえに、彼は犯罪に走らざるを得なくなったのではないか。それが全てとは言いませんが、大きな要因であったことは確かだと思えます。もちろん彼がやったことは許されることではないけれども、そういう意味では可哀想だったと思うのです。自分の中に持っているはずのスピリチュアリティを封じ込めるしか方法がなかったということなのですから。

簡単に言えば、美しい物を見て美しいと感じる心がどこかで変質して歪曲した世界を創り上げ、生贄になった弱い子どもを芸術的に装飾し、彼の神に生贄としてささげる、それが彼にとって美しいと感じる心となってしまったのだと考えざるを得ません。

## 「個人の生き方が大事」を追求した結果

私は、子どもという迷える子羊がいたら、正しく成長できるように導かなければならないと思っています。所謂、「伝道師」のような

信念を持って子どもたちを教え育てていくべきだと思います。

しかし、そういうことに考えが向かない親が多いのが現状ではないでしょうか。やはり成績や進学、就職に対する意識の方が強いでしょう。

しかも最近では、子どもの好きなようにさせるといって親が目立ちます。だから親自身も好きなように生きる。これは自由放任という隠れ蓑をかぶった親のエゴであり、偽善です。そうになると、子どもは何を基準にしているかわからなくなり、親をあてにできない。だから、自分で考えなければならぬ。考えるけれども、自分の中の土台がしっかりしていないため、壊れやすいわけです。

これは個人の生き方が大事である、それが幸福であるという、間違った考えを追求した結果です。確かに自分の個性、自分らしさは大切でしょう。しかし、それを突き詰めていくと、ある段階で自己愛的になって、他者に対する思いやりを欠き、自分勝手な許される世

# 「自分はお釈迦様の手の内」と悟る感性が青年期には重要

界に埋没してしまいます。日本の社会が揺れている要因は、「自己実現」を過大視する風潮が大きくなつたからではないかと思うのです。

## 「自分とは何か」を 考える教育

私たちはどこまで自分の中に幸福というものを持つていなければならぬのか。パスカルが神様のことを考えているときが幸福なのだと言った言葉が身にしみます。

独りでものを想い、一切のものを忘れて、何ものかと向き合っている自分が最高の幸福と考えられたら、どんなに良いでしょうか。新たな視点で、生きなおすことができるし、親しく友と付き合うときに別の視野を持つて付き合える。私たちは、そのような癒される時間を持たなければならぬのではないのでしょうか。

至高体験というのでしょうか、超越的な存在に目を向ける心が必要だと思えます。自分はちっぽけな存在で、こんなことでよくよく悩

んでも、お釈迦様の手の内だと悟らしめるような、そういう感性が青年期には重要です。その意味では、学校で宗教的情操教育を行う必要があるのではないのでしょうか。従来の教育の欠点は、「自分とは何か」を考えるヒントを子どもたちが誰からも教育されてこなかったことだと思えます。

## 母親を支える 保育者教育を

生きる喜びとは何か。メーテルリンクの『青い鳥』では、結局、青い鳥は外では見つからず、兄妹は家に帰って初めて見つけることができました。それが母親の愛です。

私は、結婚というのは「人類を繁栄させる」ことだと思っと思っています。それは恋愛ということとは違いますね。自分の命が歴史的に先祖から子孫へのつながりの中にあるという意識。家系を守る、血統を守るという意識ですね。

大人は子どもを持った瞬間から、しっかりと自覚しなければなりません。

ん。この世の中は自分一人ではないということ、自分の時間さえ充実にしていれば良いというものではないということ、そういう自覚を持って、子どもを育てなければならぬということ。それが幸福だと私は思います。そういう方向でリエゾン心身処方学をもっと広げていきたいと考えています。又、子どもと親の教育と共に、今後考えたいのは、保育者(保育士)の教育です。

「神様、ありがとう」という、本来なら自然に出てくる言葉を子どもたちが忘れてしまう時期があります。十歳ぐらいからです。それまではスピリチュアリティは常に子どもの中に育まれています。ただ、母親はこうしたことを忘れがちです。どうしても早期教育の方に意識が向きやすい。そこで保育者がそのような目を持ち、母親を支えることができればいいと思うのです。

その意味で、母親を支える保育者の教育が今後更に重要な課題となってくると思います。■

# 現在の危機を打開する 本当の「開運祈願」

## 神仏自身の開運を祈る

「開運祈願」と言えば、普通は神仏に向かって、「どうぞ私の運勢が

開かれ万事上向きますように」と祈ることである。しかし、そういう開運の祈りは転倒しているのではないかという話を、先日ある人から聞いた。この話に感銘を受けたので、ここで紹介しながら私の考えを述べようと思う。この人は自信満々の宗教家といったタイプの人でなく、ただ宗教的な本を広く読んで、自分のもつ世界観から見て合理的と思えることを進んで取り入れようとする人なので、なおさら説得力があるように思えた。「開運」とは、「家内安全」とか「無病息災」などと並んで、神仏にお祈りするときの項目の一つとして我々は理解している。しかし彼は、「開運祈願」とは、そこに祭られている神仏ご自身の開運をお祈りするのが本筋だという。神仏に何かを授けてくださいと祈るのでなく、神仏の栄えや幸福や解放をお祈りすることが、より大切なのだという。そのように祈ると、明らかな反応としての波動が伝わってくるのだという。ただし、これが彼自身の体験なのかどうかは聞

き洩らした。しかしそれはどうでもよい。ともかくこれは非常に説得力のある話ではなからうか。現在、神仏はおおむね、我々の物質主義の生活の中で、片隅に追いやられ、無視され、抑圧されている。もし古代からの神霊というようなものがあるとしたら、その抑圧された神霊の「開運」を心から祈って差し上げたときに、これに感動しない神霊があるだろうか？

## 自分に悪意持つ人のために

この人が現に実践して、効果があると私に語ったのは、対人関係での「開運祈願」だということだった。我々はしばしば周囲の人々から、自分に対する不当な、あるいは理由の不明な敵意や悪意を受けることがある。彼はそういうとき、相手の「開運」「解放」を祈るのだそうである。すると不思議に、相手の態度が変わってくるのを何度も体験しているという。具体的にどう祈るかは訊かなかった。しか

し相手との間にある何らかの霊的障害が、それによって晴れるということは十分に考えられる。相手も何かに動かされて、そういう態度に出ざるを得ないのだろうと思いやることができれば、その時点で、半ば以上解決したようなものである。

私もこの人の話を聞くまで、自分に悪意を持つ人の「開運を祈る」



## 渡辺久義

わたなべ・ひさよし  
京都大学名誉教授

1934年岐阜県生まれ。京都大学文学部卒。同大学院修士課程修了。同大学教養学部総合人間学部教授、摂南大学教授を務める。著書に『ヘンリー・ジェームズの言語』『エイツ』『意識の再編』『善く生きる』『ダーウィニズム150年の偽装』他。



というようなことは考えたことがなかった。これは相手の成長や発展を妨げている霊的な暗雲を吹き払ってあげる、ということであろう。こういう場合、宗教的観点からよく言われるのは、「甘受せよ」とか「汝の敵を愛せよ」ということだが、いずれも実践はきわめて困難である。「甘受する」にせよ「敵を愛する」にせよ、かりに意識の表面ではそうしたつもりでも、意識の底にしこりが残るのであれば、何にもならない。「汝の敵のために祈れ」とも言われるが、何を祈ればいいのかわからない。敵がどうなることを願うのか具体性がない。下手をすれば敵が減じられることを祈ってしまうかもしれない。それでは祈りでなく呪いである。



その点から言えば、敵の「開運」を願うのは、超人的な忍耐も必要とせず、偽善に陥る危険もなく、何のしこりも残さないだけではない。これは、あなたが解

放されることによつて私も解放される、あなたが救われることによつて私も救われる、という関係性の修復を目指すのだから、これこそ宇宙の原理にかなった方法だと思われ。

これは神に対する祈りにも基本的に通ずると思われる。「あなた」とここで言ったのを神に置き換えればよい。我々の知るようになった神は、人間から限りなく離れた、かつての全知全能の神でなく、人間のように悩み苦しみ悲しむ、身

近な神であるとするなら、この「開運」「解放」を願う祈りは、我々を創った神にこそ捧げられるべきものである。私がそう言うと、この人は大きくうなずいてくれた。

## 中国の「開運」「解放」を祈る

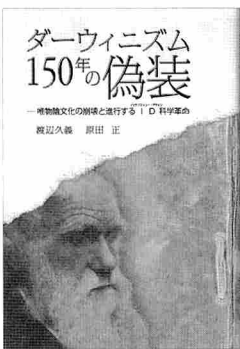
さらにはこの考え方を、我々の現実の脅威となつて共産主義・無神論中国に対して適用することもできる。我々は中国などに対して武力を強化すべきか？ それも必要であつて否定はしない。しかし根本的には、我々は中国に対して、「開運」「解放」つまり神へ向かつて開かれた繁栄の道を切り開くように、手助けしてあげるべきではないのか？ それは必然的に我々をも繁栄させるからである。それは神から遮断された物質的繁栄ではない。物質的繁栄を含めた、より大きな人間的繁栄であるはずだ。この観点が根底になれば、現在の危機的状況の打開の道はないと思われる。■

本書は、多くの人々の目を覚まさせるに違いない！  
しかし本書は、ある種の人々を間違いなく不快にさせるだろう…

## ダーウィニズム150年の偽装

——唯物論文化の崩壊と進行するID科学革命

なぜ唯物論という「いびつな哲学」が社会を支配してきたのか。ここに、鮮やかな謎解きの旅が始まる。



渡辺久義／原田 正 著  
A5版／324ページ／ハード  
カバー上製本／2500円＋税

ご注文は書店へ お急ぎの方は下記までご連絡ください

アートヴィレッジ <http://art-v.jp>  
受注センター：〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18  
TEL.078-882-9305 FAX.078-801-0006

## 愛国教育重視する エリート養成校

第二次世界大戦で連合国がドイツを降伏させた欧州戦勝記念日の五月八日や七月十四日の革命記念日、フランスでは毎年、エコール・ポリテクニーク（理工系エリート養成校）の学生が、軍服を着用し、パリ市内を行進する。一九九〇年半ばに徴兵制は廃止されたが、行進の慣習は続いている。

エコール・ポリテクニークは一七九四年開校し、ナポレオンが、国の指導者教育を行う目的で、優秀な学生を軍所属の学校に集めたことと始まる。実は現在も同校は国防省の所管で、新入生には軍の少尉の位が与えられる。日産のゴーン社長も同校の出身者だ。

このエコール・ポリテクニークをモデルに、過去に世界各地に同様な学校が作られた。アカデミックな学問より、実学を重んじ、同時に帝王学など指導者教育と愛国教育を重視し、公に仕える人材を

育成している。フランスにはグラゼコールと呼ばれるエリート養成校がいくつもあり、卒業生の多くは政治家や官僚、企業のトップとなっている。

そのため、フランスで指導的立場に立つ人材は、驚くほど愛国心が強く、フランス人としての強い

プライドを持っている。しかし、その愛国心の中身は同一民族が多数を占める日本とは大きく異なるものがある。

愛国心が強まる要因には、例えば国境を挟んで幾つかの国と接触していることで、摩擦や衝突などを繰り返すことによるものがある。

また、最近の欧州統合の深化で各加盟国の国民がアイデンティティの再考を迫られている問題もある。さらには欧州以外からの極端に文化の異なった移民の流入で、国家意識を強める動きもある。

フランスのアルザス地方で育ったベアトリスさん（五八）は「小学校の時は、授業ではなかったけど、レジスタンスの歌を皆で良く歌ったし、高校の時は、フランスが近代市民社会を欧州に定着させるのに貢献したことなど、フランスの優れたものを学んだ」と言い、特に学校で愛国教育は受けなかったが、愛国心は当然な感情として今も持っているという。

### 普遍的諸理念への誇り

三代さかのほれば、外国からの移民と言われるフランスでは、人種的意識は愛国心とは一致しない。イタリアやスペインはラテン民族が大多数を占め、ドイツにはゲルマン民族としての自覚はあるが、極右でなければ、民族意識は強いと

## ワールド・アフェアーズ

# 仏、英に見る欧州の 愛国教育

## 「愛国心は大切」と考える国民

フランスではエリート養成校で愛国教育を重視する。また英国では、自国の歴史を客観的に学ぶことで愛国心は育つと考える。欧州統合や移民問題で国民はアイデンティティ再考を迫られているが、愛国心は大切との認識は一般的だ。

在仏ジャーナリスト 辰本雅哉

はいえない。愛国心は第二次世界大戦までの長い深刻な国家間の対立の中で国民の間に自然に育つたものだった。

欧州各国間は現在、戦争に発展するほどの深刻な対立は存在しない一方、欧州以外からの移民流入に対して、国家観の強化という課題を抱えている。特にイスラム圏からの移民流入は、大きなテーマで欧州の精神基盤そのものを根底から揺さぶっている。

フランスでは二〇〇七年のサルコジ政権発足とともに、移民・同化・国民アイデンティティ省が新設され、特に国家への同化政策に力を入れてきた。つまり、共和国の価値観、法律、制度への理解と従属、フランス語の修得などを強く求めている。

欧州各国が抱える移民問題の中心にあるのは、これまで各国が築



革命記念日にシャンゼリゼ通りを行進するエコール・ポリテクニークの学生たち＝フランス・パリ

いてきた政治・経済システムや、法治国家として守るべきルールや慣習、成熟した民主主義、人権尊重、政教分離などの近代市民社会の普遍的諸理念が脅かされることへの不安だ。

つまり、西洋文明が構築してきた価値観や社会システムを理解し尊重するのではなく、不従順なだけでなく、それらに批判的な態度を取る移民の流入が社会秩序を破

壊するという危機感が存在していることだ。その危機感や不安が極右政党の伸長を生んでいる。フランスのように政府が「よい移民」「悪い移民」の選別を始める国も現れる。

この問題は反イスラム的感情を愛国主義に転化し、かつての反ユダヤ主義を再現する差別主義を生む危険性もはらんでいるとの批判もある。しかし、国民感情としては、西洋文明とは相いれない異文化を持ち込むイスラム教徒への違和感や拒否反応は消えない。

英国やフランス、ドイツといった欧州の主要国で、国民のアイデンティティをどう育てるかは明確になっているわけではない。英国では移民問題が深刻化する中、二〇〇八年政府が愛国心教育を学校教育に入れようとして批判が高まった。

それは「その人が国を愛することとを強制することはできない」というものだった。愛国心や愛郷心は、人から強制されて持つものではなく、まして教育機関が行うものでもないとの批判だ。ロンドン大学教育研究所が実施した調査で

は、愛国教育を初等教育で行うべきと答えた教師は9%で、歴史教育は中立を維持すべきという答えが大半を占めた。

## 国の歴史を客観的に教える

ロンドンの有名私立イートン校でラテン語を教える教師ロバート氏は「愛国教育を露骨に教えなくても、英国の歴史で普遍的に評価される人物や出来事、世界的に評価されている議会制民主主義の価値観を客観性を持って教えれば、自然に愛国心は育つ」と語る。

現在、欧州は統合が進み、国家の価値よりはヨーロッパの価値を重視する方向に動いている。すなわち人権尊重、民主主義、法の支配、市場経済、多様性の受容などである。そのため愛国心の内容も大きく変化しつつあるが、二十年以上欧州に住む筆者は、愛国心を持つことを悪いことと考える人に出会ったことは、ただの一度もない。■

大学の入学時期

# 東大が秋入学目指し「中間報告」 「グローバルでタフな人材」育成めざす

東京大学が秋入学への全面移行を目指して「入学時期の在り方に関する中間報告」をとりまとめた。欧米諸国に倣って秋入学にするこ

とで質の高い学生を取り込むとともに、「グローバルでタフ」な人材育成を図りたいという狙いだ。

中間報告によると、世界二百十五カ国のなかで春入学はインド、パ

キスタンなど七カ国(三%)。欧米中心に七割が秋入学だ。二〇〇八年四月の制度改正で、東大は大学

院の秋入学を導入、大学院在籍者の留学生割合は一八・六%(二千六百九十人)までになった。

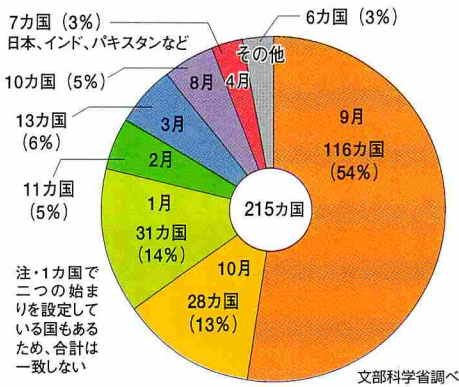
この二十年、日本で学ぶ留学生の数は格段に増加しているが、世界と比べると留学生や外国人教員の割合は低い。またアジア諸国で海外留学が増えるなか、日本人の海外留学は低迷している。英教育専門誌「タイムズ・ハイヤーエデュケーション(THE)」が行っている二〇一一年世界大学ランキングでは、東京大学は二十六位から三十位に。グローバル化の遅れが、国際的評価の低下につながるとい

う危機感が強い。入学時期を国際標準にあわせることで、学生や教員の国際的流動性は高まる。ただ優秀な学生が海外に流れやすいという懸念も。大

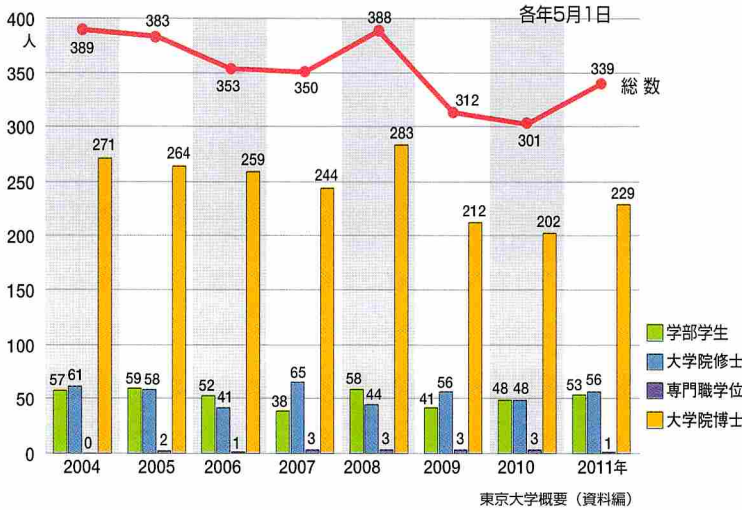
学入学前と卒業後の空白期間の時間的・経済的損失をどうするかという問題がある。

中間報告では入試の時期はこれまで通りとし、入学決定後、海外留学ボランティアなどの体験活動に充てることを提案している。将来、秋入学が他大学にも拡大すれば、入試のあり方など学校教育全般に影響を及ぼす可能性がある。

## 諸外国の学年の始まり



## 海外へ留学している東京大学の学生数



一方、学部段階では一・九%(二百七十六人)。世界の主要大学(学部)をみると、ハーバード大学とイエール大学が一〇%、スタンフォード大学七%、北京大学五%、ソウル大学六%、シンガポール大学二%と高い比率だ。国内の大学学部の留学生数で比べても、立命館アジア太平洋大学がトップ(二千五百五十人)、東大は四十位という



子供の体験活動

体験活動が多いほど「思いやり」や「意欲」育つ 自然体験は5年前より減少傾向

「海や川で泳ぐ」「昆虫を捕まえる」「野菜や果物を切る」「道路や公園のゴミ拾い」といった子供の

頃の自然体験や生活体験が、思いやりや意欲、自己肯定感など人格形成に関係している。

「青少年の体験活動と自立に関する実態調査」（平成二十二年度）で、

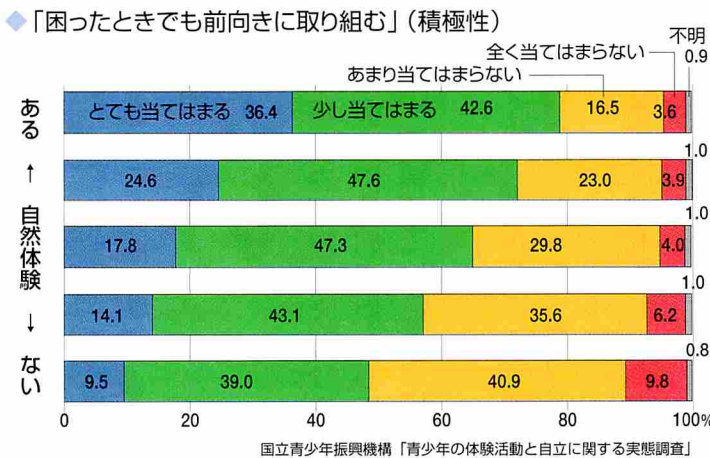
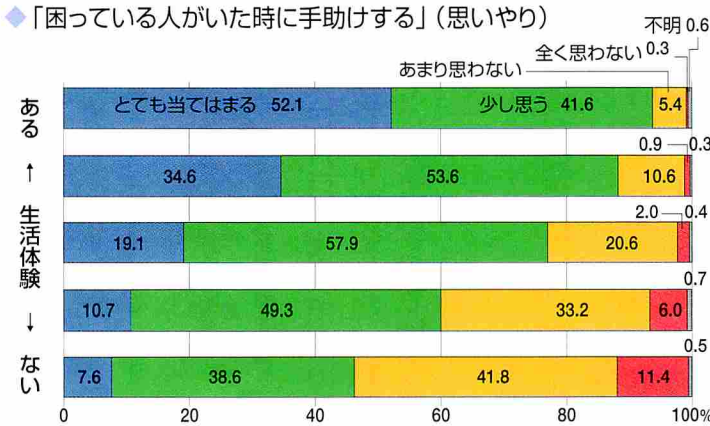
ない子供は七・六%で、七倍近い差があった。「困ったときでも前向きに取り組む」「わからないことは、そのままにしないで調べる」「勉強は得意な方だ」なども「とても当てはまる」の割合は、三〜七倍程度の差があった。

保護者への調査でも、子供の頃の地域活動やボランティア、家族行事などの体験が多いほど、人間関係や文化的作法の資質・能力が高く、自然体験や動植物とのかわり、あるいは家事手伝いなどの体験が多いとボランティア意識も高い。

ただ、子供たちの自然体験は、「山登りやハイキング」「昆虫や水辺の生き物を捕まえる」「植物や岩石を観察する」など五年前に比べて一〇ポイント以上低くなっており、全体的に減少傾向にある。

新学習指導要領では豊かな体験活動による道徳性育成を重視しており、学校はもちろん、家庭、地域が連携してどう取り組むかが課題と言える。

青少年の体験活動と行動習慣の関係



こうした結果が明らかになった。調査は小中高の児童生徒約一万八千人と小学生の保護者約一万六千人を対象（同機構の調査は二〇〇六年度から行われている）。このうち子供たちへの調査を見ると、「困っている人がいたときに手助けする」に「とても当てはまる」という回答が生活体験が多い子供は五二・一%、体験が



「横浜みどりの学校ひまわり」

# 子供たちの「光るもの」を伸ばしたい

昨年六月、横浜市内の住宅街に「横浜みどりの学校ひまわり」（渡辺正彦校長）が誕生した。発達障害や不登校に悩む子供たちの「居場所」として、「公立学校ではできない手法」で育てていくこうという学校だ。

## 悩みを抱えた親子に応えたい

渡辺校長は、昨年三月まで横浜市青葉区の市立さつきが丘小学校の校長を九年間務めた。「ひまわり」を開校した理由は、小学校の校長在職時から発達障害児の保護者の悩みを聞いていたことが大きかったという。

「同じ悩みを抱えた親同士でもコミュニケーションの場が無い。親は藁をもすがる思いです。料金が高いフリースクールでも無理をし

て通う親子もいますが、経済的な理由で行くことのできない親子もいました」。

発達障害児や不登校児への手立が公立学校では限られていることを感じた渡辺校長は、それなら自ら学校をつくらうと決意。地元で造園業と農園を営む下山和正さんの協力で農地とコンテナハウスを準備した。また地域の自治会長の協力と理解を得て、昨年六月に開校にこぎつけた。

このため、「ひまわり」はボランティアでの運営が基本だ。親にボランティアで入ってもらう他、タ

ウン誌などで学校の存在を知って協力を申し出てくれる人たちもいる。

現在登録している児童生徒は二十五人。最近は東京や他県からの問い合わせもあるという。

## 公立学校ではできないことを

教育の軸は農業体験や自然体験だ。ウコッケイを一生懸命に世話をする子。薪割りをする子。畑を耕したいという子もいて、夏はサツマイモを作る。穴堀や火おこし

の指導もある。

「ひまわり」の理念は「公立学校でできないことをやる」ということ。公立学校と連携しながら、公立学校ではできない手法をとり入れる。例えば、ゲーム機やカードゲームも「あり」だ。これには渡辺校長の強い思いがある。

「発達障害児は『きらりと光るもの』を必ず持っています。私は、それが個性だと思っています」。

「個性尊重」と言っても、集団教育の公立学校では限界もある。平均的にできる子にすることを目標にするため、苦手な部分を普通のレベルにしようとするが、発達障害の子は思ったことができないということも少なくない。それでも、その子の個性を認められるような学級作り、他の子供たちも理解できるような学級作りをしてほしいというのが、渡辺校長の願いだ。

「発達障害の子の場合、苦手のものを無理に直そうとすると劣等感だけを与えることになりかねない。ですから、『ひまわり』では長所を伸ばすことをまず考えます。ファ



「横浜みどりの学校ひまわり」  
写真下＝昨年9月24日のサツマイモ堀り、  
写真左＝渡辺正彦校長



ミコンが得意な子は、それをもつと伸ばしてあげる。鉄道模型が好きな子は、鉄道のことにもっと詳しくなれるようにするのです。子供の興味、関心を教育に繋げたいのです」。

学習指導も、算数、国語だけではなく、鉄道模型が好きな子であれば、地図を広げて県庁所在地を勉強するというように、その子の

状況に合わせて行う。長所を伸ばすことで自尊心を高め、子供はもっと成長すると渡辺校長は強調する。

「もちろん社会規範の遵守や集団での協力などは理解させなければなりません。その上で個性にあつた弾力的な教育プログラムを組み、一人ひとりの『光るもの』を引き出す。これこそ『ひまわり』が目

指す理想です」。

## 地域に支えられ 共に子供育てる

もう一つ、渡辺校長が大切にしたいというのが「地域とのつながり」だ。地元の小学校長を九年間務めた渡辺校長に、今も地域の人々が大きな力になってくれていると

いう。「応援してもらった子供たちがこれだけ立派になりましたというのを見ていただけると嬉しい。地域に支えられ、共に子供を育てていくというのが一番だと思います」。

渡辺校長の理想に共鳴して協力を申し出た下山さんは「目の前の子供とその子が抱える問題を見つめるといふ本来の意義を置き去りにしないように、少しずつ場所や施設が整っていけばいいと思います。良いことだからと一方的に進めるのではなく、地域の方々に認めていただきながら、地域が活性化していくようになれば」と語る。

「今のコンテナハウスの施設は、すきま風が吹くような場所ですが、その中でもがんばる。これが教育の原点ではないかと思うのです。毎日が試行錯誤の連続です。しかし、子供たちを見ていけば不思議と『見えてくるもの』があります」という渡辺校長。悩んでいる親、困っている子供がいれば、手を差し伸べていきたいと意気込みを語った。

# 少子化対策には「家庭の価値」教育の充実を

家庭、子育ての価値  
自覚させる

少子高齢化の急速な進行を予測した将来推計人口が発表された。少子化対策として、これまで様々な策が打ち出されてきたが、家庭の価値と教育の充実を図るべきではないか。

編集部

## 高齢者1人を

## 1.3人で支える

国立社会保障・人口問題研究所

が先月三十日に発表した「将来推計人口」によると、今から五十年後の二〇六〇年、日本の総人口は現在の三分の二の八千六百七十四万人へ大幅に減少する。特に六十五歳以上の高齢者が三千四百六十四万人で、全人口に占める割合は現在の二三・〇%から三九・九%に急上昇。一方で十五〜六十四歳の生産年齢人口は、現在の八千七百七十三万人から四千四百十八万人とほぼ半減。割合も六三・八%か

ら五〇・九%まで低下する。また、〇〜十四歳人口も千六百八十四万人（一三・一%）から七百九十一万人（九・一%）まで減少する。

少子高齢化の急速な進行で、社会保障の見直しが叫ばれている。何人の生産年齢人口で一人の高齢者を支えているかを見ると、五十年前の一九六〇年は十一・二人、二〇一〇年は二・八人、そして二〇六〇年には一・三人で一人を支えることになる。このため、年金制度の破綻が取り沙汰され、社会保障と税の一体改革も課題になっている。

少子化対策にはいくつかの取り

組みがあるが、ここでは教育の観点から考えてみたい。

経済学者の安宅川佳之氏（故人、日本福祉大学教授などを務める）は、二〇一〇年に発表した著書『家族と福祉の社会経済学』（日本経済新聞出版社）の中で、少子化を「モラル・ハザード」として捉えている。

「社会保障制度が充実した結果、高齢期の生活保護を国に頼ることとなり、家族による社会保障の時代には意識されていた『世代間扶養の摂理（子どもを産み育てることの重要性）を忘れてしまった』ことが少子化を招く要因になったという。

同氏はまた、「少子化問題を解消するには、利他主義の根源に立ちかえって、子どもを産むことの意味を国民全体が根本的に考え直すことが必要である」と述べている。つまり、税制改革や福祉の充実の前提として、「家庭の価値」「結婚と子育ての価値」といった価値観を自覚しなければ、少子化問題の根本的解決にはならないというわけだ。

同氏の主張から見れば、利他主義や家族の価値を教育の場で取り上げていくことが重要な少子化対策ということになる。

家庭の価値に関して考えてみると、家族あるいは家庭は、正直や信頼、責任などの徳を学び、人格を育てる場である。そして子供から親への「孝行」、兄弟間の「友愛」、夫婦間の「貞節」という、家庭倫理が育つ。それが社会に広がり、社会倫理の基礎になると言える。

また、子供は親の愛情を受けながら成長し、親孝行という形で親に愛を返す。そして弟や妹がいれば、兄弟姉妹を愛する愛を体験する。そのようにして成長しながら、結婚して夫婦の愛を体験し、子供ができれば父母の愛の喜び、つまり子育ての喜びを体験することになる。このような愛の体験が家庭の持つ重要な価値である。

もちろん、父母の子育てを支援する政策、児童虐待への対応、介護問題などに対する政策は進めなければならぬ。それでも、より根本的な対策として「家庭の価値」を取り戻すことが必要ではないか。

## 教育によって 意識転換を

ただ、教育現場ではこうした家庭の価値があまり取り上げられない現状がある。

例えば、公民の教科書では家族に関する記述が減り続け、逆に個人主義や平等権が中心になっていくのである。



子育ての喜びなど愛の体験が家庭の持つ重要な価値

「確かに資本主義社会が進むほど、家族は壊れやすくなる傾向があります。それを国の施策や思想的な力によって守っていかなければなりません。思想的に守っていくときに、教育が大事になります。教育で家族をきちんと取り上げることが大切だし、正道だと思いません。例えば家族を守る法律を制定することも必要ですが、教育によって地道に国民の意識転換を図ることをやっていかなければなりません」(小山常実・大月短期大学教授、

本誌二〇一一年十一月号)。

もともと日本人の中には「家族は大切」という意識は強い。東日本大震災によって、家族の絆の力を多くの人々が実感し、希望としたことも確かだ。

この時にこそ、家庭の価値、子育ての喜びに気付かせる教育を取り上げていくべきであろう。遠回りのように見えても、それが国の危機を救うことに繋がっていくはずだ。■

# 心がもっと軽くなる

心療内科医と話そう  
おいしやさん



この本の著者は身体に巣食う多様な歪性を人間味豊かに解きほぐす癒しの達人だ。

作詩・作曲家 小椋佳

【もくじ】

- 第1章 心とは
- 第2章 心療内科医の診察現場
- 第3章 心の発達は家族の愛情の中で
- 第4章 各々の年代における問題行動と病気、その対応

四六判上製本334頁 / 定価1500円+税

ご注文は書店へ お急ぎの方は下記まで

アートヴィレッジ <http://art-v.jp>

■受注センター

〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18

TEL.078-882-9305 FAX.078-801-0006



## 南方熊楠 (1867 ~ 1941)

幼少で病抱えながら学問的業績積んだ生物学者

幼少から病を抱え、変わり者と見なされた生物学者は、必死に学問に没頭し業績を積み上げていった。

ジャーナリスト 池永達夫

### 病弱でも書物を読みふけた少年期

な胃腸病をさしたが、全身的衰弱をも伴ったらしい。病弱だった熊楠は、六歳まで話をするのもうまくできず、小学校にあがってもしばらく乳母の膝にまたがって乳を飲んだ。熊楠は小さいころから目に力があつた。その目を光らせて、とりわけ興味を示したのが絵入りの本だった。

六歳の熊楠は、近所から菓子をもらつても喜ばなかったが、一冊の本を手にするると狂喜した。彼は書物を読みふけると、食事に時を割かれるのを嫌がる。家の中でも立ち居する時、厠に行くとき、路上を歩むときも読書をやめなかつた。

そうした少年の純真な心を生涯持ち続けたのが熊楠だった。

### 英国で脚光浴びた研究

熊楠は和歌山中学在学中から、イギリスの植物学者パークレーにあげられていた。パークレーは昼はギリシャ語教師として生計をたて、夜は寝る間を惜しんで勉学に励み、菌

学の父とたたえられた人物だった。最初は興味本位だったが、十九歳以後、勉学や研究に打ち込むもう一つの動機が加わった。それは自分の血脈の中から流れきている精神病という狂気を押さえ込むためだ。破滅から逃れるためには、学問に没頭するよりほかにないと熊楠は思い込んだ。そうすることで、胸に沸き立つ昂揚が彼の内心の異常を抑え、均衡を保ってくれると思つたのだ。

熊楠は一旦、故郷の和歌山を離れ、大学にいくため東京で勉強するが、十九歳の折にてんかんの大発作に定期的に襲われるようになった。それで熊楠は東京での勉強をあきらめ、帰郷を余儀なくされた。だが実家に居場所はなく歓迎されざる帰郷だった。それならいつそ海外へということからすべては始まる。

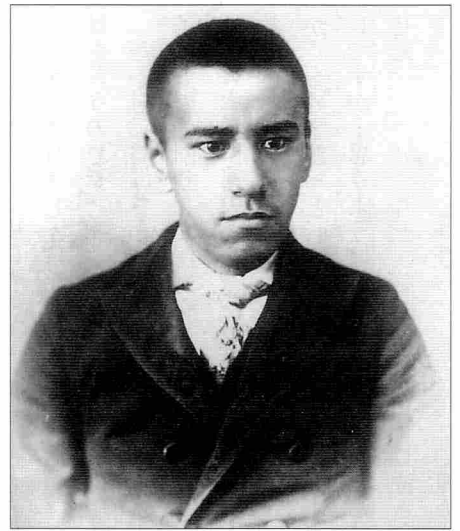
米国を経て英国に渡つた熊楠は、ロンドンの天文学会の懸賞論文に一位入選し一躍脚光を浴びた。大英博物館東洋調査部に入って資料整理に尽くし、人類学・考古学・宗

南方家では子どもができる近くの藤白神社から藤、熊、楠の一字を含むのが慣わしだった。熊楠は四歳のころ、脾疝ひかんという病気にかかり、医者に「とても育たないだろう」といわれた。そこで父親は使用人に熊楠を背負わせて十数キロある藤白神社まで夜明け前に歩いていき、境内にある楠の木の中に回復を願って願かけをした。楠は藤白神社の神樹であり、また熊楠の守護神でもあつた。この時の情景を、熊楠はのちのちまではっきり記憶していたという。

脾疝というのは子どもの慢性的



# 病を克服した 偉人 たち



南方熊楠 (写真提供/財団法人南方熊楠記念館)

教学などを独学するとともに、世界各地で発見、採集した地衣・菌類に関する記事を、科学雑誌『ネイチャー』などに次々と寄稿していった。洋々たる未来が開けかけた矢先、熊楠の生活は暗転した。大英博物館や下宿で英国人、トルコ人を殴打する事件を起こして弾劾されたのだ。

故郷の和歌山に舞い戻った熊楠は、フィールドワークをこなしながら粘菌類の採取と学術的発表に余生をささげた。また柳田國男氏らと協力しながら神社合祀反対運動も手がけた。この神社合祀反対運動も、何も菌類の生息地が荒ら

消滅させることは、日本人の精神的支柱をぐらつかせることにながりがかねないとの危機感に他ならなかった。

## 天皇の御製に名

変わり者の熊楠は、子供から馬鹿にされたり、無知な大人たちの蔑みの視線にさらされながらも、黙々と学問的業績を積み上げていった。

ある時は監獄にも入るような時もあったが、牢獄でも生物学上の新発見をした学者は、おそらく世界で熊楠だけかもしれない。この時、熊楠は赤い粘菌を採集し、そ

れが新種のもものと認定された。熊楠にとって報われることの少なかった学問的業績ながら、そうした苦労も吹き飛ばすような出来事があった。それが昭和天皇のご巡幸の時に、ご進講の榮譽に浴したことだ。

雨にふる神島(かしま)を見て  
紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ  
天皇が御製(天皇が作った詩歌)の中に、個人名をいれたのはこの句だけだ。一方、神島の行幸記念碑には熊楠が作った「一枝も心して吹け沖津風、わが天皇(すめらぎ)のめでます森ぞ」の句が刻まれた。

晩婚の熊楠にとって息子の熊弥はそれこそ「目にいれても痛くない」存在だった。その熊弥が単身向かった受験先で、熊楠の言葉で言うところ「発狂」した。熊楠は腑臍をえぐられるような痛みを感じた。熊楠は死の床に伏し、最後に「熊弥、熊弥」と叫んで事切れた。■

# 子育ては✽絵本で✽大丈夫

\* 19



浜島代志子  
劇団天童/  
天童芸術学校代表

## へそまがりも程々に。 親は死んでも子を教育します

「あまがえるさん、なぜなくの？」韓国の昔話

なんでも反対ばかり言うへそまがりのあまんじゃくあまがえるの坊や。子ども時代には誰でも経験しますね。幼児期にあまんじゃくやへそまがり体験があるのが普通です。私も子育て中にたつぷりへそまがりされました。なんでも反対を言うのです。

だから、お母さんは頭を絞って子どもの先回りして反対を言っちゃんとさせようとするのですが、ところがどっこい、敵もさる者ひっかくもの…おっと、これはダジャレですが…思うように事は運びません。



「あまがえるさん、なぜなくの？」  
さ・え・ら書房刊

この物語の主人公、あまがえるの子もとびきりのあまんじゃく。素朴で温かい絵がますます母親とあまんじゃくかえるの強烈なやりとりを面白くさせてくれます。

日本にも同じよ

うな話がありますが、ここまで激しくはありません。文化の違いでしょうか。

さて、なんでも反対ばかりのあまんじゃく坊やを心配のあまり、お母さんは病気になるてしまいました。

「ぼうや、私が死んだら、山ではなく必ず川のそばに埋めてね…」お母さんは山に埋めてもらいたかったのでわざわざ反対を言いました。

◇ ◇ ◇

あまんじゃくぼうやはお母さんをどこに埋めたでしょう。ケロケロ泣きながら川の傍にお墓を作って埋めました。こんどこそお母さ

んの言うとおりにしようと思ったのです。雨が降るとアマガエルがケロケロ泣くのは、お母さんのお墓が川の水で流されないかと心配しているのです。あまがえるのほうはやはずうつと後悔して泣くのかと思うと、可哀相な気がします。

親は死んでも子の教育をします。親は有難いもの、有難いと思われる親でありたいものです。

◇ ◇ ◇

劇団天童はミュージカル「うりこ姫とあまんじゃく」を保育所で公演中です。あまんじゃくは天の邪鬼、うりこ姫は天の姫なのだそう。昔話絵本に登場するあまんじゃくはむごい死に方をします。そばの茎が赤いのはあまんじゃくの血だということですが、私は違和感を覚えたので原典にあたりました。すると、やはり・・・と思う記述があり、私の想像の翼で脚本を書きました。お釈迦様は天の邪鬼を地上に降ろしましたが、うりこ姫の優しい心があまんじゃくを受け入れたのであまんじゃくは良い子になったという展開です。■

# 日本人留学生、1割減の 5万9千人 5年連続の減少に

○ 文部科学省のまとめによると、二〇〇九年時点の日本人の海外留学生は五万九千九百二十三人で、前年より一〇・三％（六千九百人）減少した。○四年の八万二千九百四十五人をピークに、五年連続の減少となっている。同省が一月二十日に公表した。

だった。

一方、日本の大学などに在学する外国人留学生は、二〇一一年五月一日現在、十三万八千七十五人で、前年より二・六％（三千六百九十九人）減少した。大学院在籍者は三万九千七百四十九人で一・七％増えたものの、大学や高専、専修学校等の在籍者は減少した。

## 小中高のいじめ、約5千件増



十件（同百二十一件増）だった。また、小・中学校の不登校児童生徒数は十一万九千八百九十一人で、前年度より二千五百四十一人減少した。このうち小学校二万二千四百六十三人（同百三十六人増）、中学校九万七千四百二十八人（同二千六百七十七人減）。

一方、高校の不登校生徒数は五万五千七百七人で、前年度より三千九百七十九人増えた。

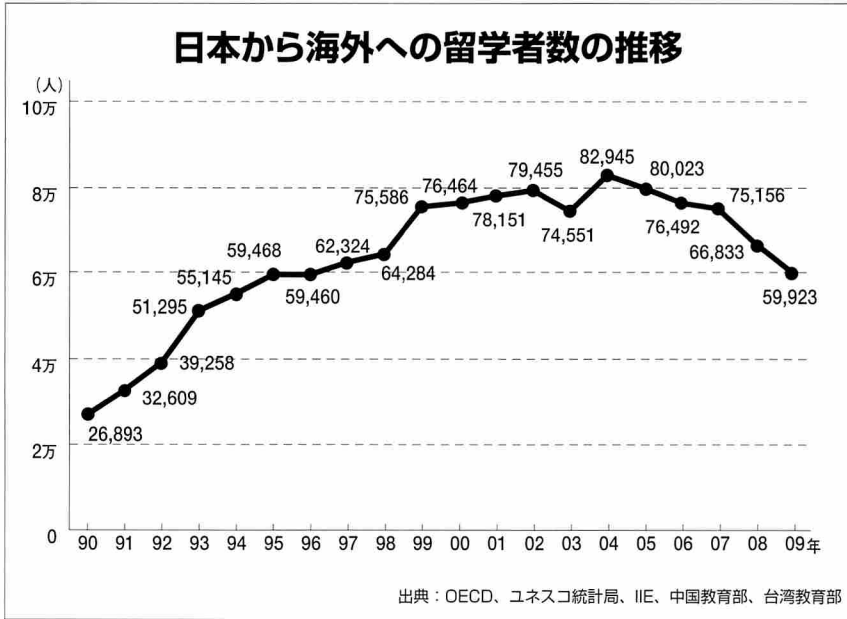
## 喫煙者、2割を切る



文部科学省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（確定値）によると、二〇一〇年度の小・中・高・特別支援学校でのいじめの認知件数は七万七千六百三十件と、前年度より四千八百五十二件増えた。

学校別では、小学校が三万六千九百九件（前年度比二千四百四十三件増）で最も多く、中学校が三万三千三百二十三件（同千二百三十二件増）、高校七千八百八十八件（同千三百七十六件増）、特別支援学校三百八

## 日本から海外への留学者数の推移



留学先は、最も多い米国が二万四千八百四十二人で、前年比四千四百二十二

人減少。二位は中国の二万五千四百九人（前年比千三百二十四人減）、三位が英国の三千八百七十一人（同五百九十四人減）

習慣的に喫煙している成人は一・九・五％（前年比三・九％減）と、二割を切ったことが、厚生労働省の二〇一〇年「国民健康・栄養調査」で明らかになった。このうち男性は三二・二％（同六・〇％減）、女性が八・四％（同二・五％減）。喫煙者のうち、たばこをやめた人と思われている人の割合は、男性三五・九％、女性四三・六％に上っている。

心がもつと軽くなる

菊川豪著／アートウェイレッジ  
／一五七五円(税込)



「心療内科医と話そう」というサブタイトル通り、著者はベテランの心療内科医。

前半は、現場での患者とのやり取りを例に医師の診察の実際を紹介。後半は幼児期から高年齢までの問題とその対応を述べている。著者が強調するのは、心の発達で家族の愛情の中でなされるということ。特に幼少期の母親の愛の大切さだ。青少年期は自分が人より劣っているとといった劣等感を持ちやすいが、そういう時、母親から愛されているという実感を持つていれば、劣っている分だけ他のもので頑張ることができる。逆に、そうした母子の心の確認ができていなければ、子供は自立できず、問

題が起きてくるといふ。

また、豊かさは精神的な面が大切であることを、日々の診察の中で深く実感。「幸せの意味」「豊かさの意味」を問う時、日本人の中に「宗教する心と哲学する心」が必要ではないかと語る。

心の病、子育てなどの課題について、著者の豊富な経験から語られる内容は丁寧で参考になる。

ニッポン女子力

能町光香著／小学館／一四七〇円(税込)



外国人男子はニッポン女子のどこに惹かれるのか。欧米女子は自分が一番と考えるのに対して、日本女子は上司や男子をさりげなく立て、陰で支える奥ゆかしさがある。外国企業では「職場の宝」と重用され、高い評価を得ているといふ。

外資系会社の秘書歴十年の

著者もその一人。本書には欧米女子と日本女子の仕事ぶりや日常生活での振舞いの違いが驚きをもつて綴られている。

日本女性がごく自然に振舞っている心遣いや振る舞いがいかに特別で美しいものか。また企業の業績に貢献しているか。「奥ゆかしさ」「気がきく」、さらに恥の意識から生まれる「気高さ」、それは持つて生まれた日本女性のDNAのよう

なもの。著者はさまざまな職場体験から、それが外国人からニッポン女子が重用され、愛される理由と述べる。

日本社会にいたら見えてこない日本女性の美徳。それに気づいて、誇り大切にせよ。その上で国際社会で必要なコミュニケーション能力やアピール力を身につければ、世界最強女子になれるはず。なでしこジャパンに続けとばかりに、ニッポン女子力に熱いエールを送る。

読者の声

松居先生の子育て論に感銘

元大学教授（東京都）

2月号の松居和先生「人間の善性を引き出す“子育て”という素晴らしい営み」に感銘しました。松居先生の論説を日本中にもっと広げていただきたいと思ひます。

「宗教学」と「哲学」について一文を

医師（兵庫県）

2月号の「子育ては絵本で大丈夫」をおもしろく読ませていただきました。

「宗教学」と「哲学」について、分かりやすい一文を載せていただきたいと思ひます。

# 真の幸福とは何か

東日本震災後、価値観が変わったという声をよく耳にします。「国民総生産（GNP）」より、心の豊かさ（GNH）が大切だとするヒマラヤの小国ブータンへの関心が高まっているのも、物質的な豊かさ（GNP）に偏った幸福感を考え直す動きが顕著に

なってきたからでしょう。戦後、日本人は経済的に豊かになれど、幸せになれると考えると、乱に経済成長を追い求めてきました。しかし、その一方で自殺者、孤独死、児童虐待などの社会問題が深刻化。若者が夢を語ったり、明るい将来像を描きにくい社会になっています。

然のことかもしれません。

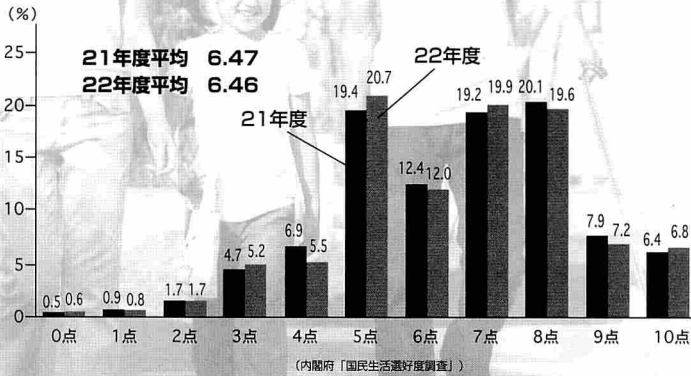
経済協力開発機構（OECD）による幸福度比較（昨年五月公表）では、日本は加盟国三十四カ国中、十九位でした。これは住居や仕事、健康、環境などの項目を数値化して比べた調査です。必ずしも国民の生活実感（GNH）を正確に反映しているとは言えませんが、世界第三位の「経済大国」の割には、日本の幸福度は低くなっているのです。

内閣府は昨年三月、国民生活選好度調査を行いました。それによると、「とても幸せ」を「六・五」でし、本人の平均幸福度は「六・五」でした。デンマークが八・四、スイス七・九だったのに比べると、こちらも高い数値とは言えません。OECD調査で気になったのは、過去一カ月間で他人の手助けをしたことがありと答えた人は二三％で、調査中、最も低くなっていることです。日本人の幸福度が低いのは他者に無関心になった結果、人と人の絆が弱くなり、精神的に貧しい人が増えたからではないでしょうか。

今は価値観の大転換の時です。物質的な豊かさの代わりに、私たちが目指すべき真の幸福とは何でしょうか。それは家庭や地域を中心に、人と人の絆を強くすることによって得られる心の豊かさなのです。

## 個人の幸福度の現状

問 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると何点くらいになりますか。



そこに起きたのが「3・11」です。これまで豊かさの象徴だった家、車などの財産を一瞬のうちに失った人がたくさんいます。そればかりか、経済を支えてきた電力を供給する原発が事故を起こして、福島の人々の生活を奪いました。この過酷な現実を目の当たりにした時、真の豊かさとは何か、真の幸福とは何か、と考えるようになったのは当然

# 家庭は愛の学校

真の家庭運動推進協議会

The Association for the Promotion of True Families

〒160-0002 東京都新宿区新宿5-13-2 成約ビル4F  
 電話03(6451)7660 FAX03(6451)7661 <http://www.aptf.jp>

毎月第3日曜日は「家庭の日」  
 11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、社団法人「青少年育成国民会議」が進めてきた「家庭の日」運動に発展し、今ではほとんどの自治体が「第三日曜日は「家庭の日」、第一日曜日は「家族の日」、第二日曜日は「家族の日」として定めました。その前後、週間は「家庭の週間」として定めました。この日を機会に、家族の強い絆を確認できれば、それは家族みんなの素敵なプレゼントになるでしょう。

● 皆様のお意見や気づいたことをお寄せ下さい。教育問題に関して、皆様の身の回りでの様々な出来事や御意見などを真の家庭運動推進協議会本部までお寄せ下さい。お寄せいただいたものを参考にしながら、皆様と共によりよい教育環境や家庭づくりに取り組んでいきたいと考えています。





第3種郵便物認可  
2012年3月10日発行  
毎月10日発行・通巻262号

# “敵国”ロシア沈没船の乗員を救助／島根

歴史と  
伝統の訪  
探



(左上より時計回りに)イルティッシュ号が漂流したと思われる海岸、この出来事を取り上げた『みんなのどくとく』(島根県版、学研)、和木公民館に展示されているイルティッシュ号の遺品、慰霊碑



明治の頃、日本近海で遭難した外国船乗組員を地元住民が救出したというエピソードがある。和歌山県沖で遭難したオスマン帝国の軍艦エルトゥール号の事故(一八九〇年)はよく知られている。もう一つ、島根県沖で起こったロシア艦の遭難事故は、実は日露戦争の最中の出来事だった。

一九〇五年(明治三十八年)五月二十七日、東郷平八郎が指揮する日本の連合艦隊とロシアのバルチック艦隊が戦った日本海海戦。

この戦いで、バルチック艦隊の特務艦「イルティッシュ号」が被弾して損傷する。強風の中、イルティッシュ号は浸水しながら北上を続けたが、島根県那賀郡都濃村和木(現・江津市和木町)沖で航行不能になる。乗組員たちは、ボート六隻に乗り込んで陸上を目指す。それでも強風でボートも座礁し、海

に投げ出された。

和木の人々は最初はロシア軍の攻撃かと恐れたが、投降であることが分かると海に飛び込んで総出で二百三十五名の乗組員を救助。そして食料を与え、負傷者の手当をした。少年兵の体を自らの肌で温め介抱する女性もいた。

乗員は二つの小学校に収容され手厚い看護を受けた。その後、全員が浜田へ移送され、四国の捕虜収容所を経て、翌年、ロシアに帰国する。

現在、和木町には慰霊碑が建立され、兵士達を偲ぶロシア祭も毎年行われている。

島根県の道徳副読本『みんなのどくとく』島根県版六年、学研)は、和木の人々が敵国ながら乗組員を救助したことや、ロシア祭を通して今も続く両国の交流を教材として取り上げている。

2012  
3  
no.262

En-ichi

●発行所  
NCU-NEWS  
(東西南北統一運動国民連合)

〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-13-2  
成約ビル2F  
TEL.03(5362)0631  
FAX.03(3354)5017  
E-mail news@en-ichi.org  
URL http://www.en-ichi.org

●発行人 渡辺久義  
京都大学名誉教授

定価 400円  
[1年間5000円(送料込み)]  
郵便振替番号  
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想をお寄せください。  
●定期購読のお申し込みは、電話またはEメールでどうぞ。